



## 「聖書の豊かさを 深く学んでいくために」

四国中会 南与力町教会牧師  
坂尾 連太郎

今年の2月から新約聖書緒論の講義を担当させていただくことになりました。袴田先生から依頼の電話を受けたときには、緊張・驚きと共に身の引き締まる思いになりました。私自身は大した実力があるわけではありませんが、神学校で教えるという責任を与えられた者として、自ら学び続け、少しでもお役に立てればと願っています。お祈りに覚えていただければ幸いです。神学校を卒業して6年が経ちましたが、神学校では豊かな学びと経験が与えられ、それが今の働きの基礎になっていると感じます。神学校での講義はどれも興味深いものでしたが、私自身は「新約聖書学」に特に関心を持ち、卒業論文もその分野で書きました（『マタイ福音書におけるイエスと教会の関係』）。

神学には「聖書神学・歴史神学・組織神学・実践神学」という4つの大きな分野があります。どれも重要なものですが、その中で聖書神学は最も基礎的な分野と言えるでしょう。そして「御言葉によって改革され続ける教会」としての改革派教会にとって、聖書そのものを研究する聖書神学の果たすべき役割は小さくないはずです。

「聖書神学」という分野は狭い意味では18世紀後半から始まった比較的新しいものです。啓蒙主義と合理主義の台頭と共に、聖書も他の歴史的な文書と同様に客観的・歴史的に研究され解釈されるべきだという主張が起こってきました。そうして「歴史的・批評的方法」が確立し、様々な成果をもたらしてきました。しかし同時に聖書の正典としての権威が否定されるという問題も引き起こしてきました。そのような言わば破壊的な

聖書研究と戦い、福音主義的な立場に立って聖書神学を志す神学者たちも現れました。現在認識されていることは、たとえ「歴史的・批評的方法」を用いたとしても、純粋に客観的・中立的な聖書解釈などあり得ないということです。つまり聖書を解釈するにあたってはその人が持っている、ある前提・立場・枠組みが必ず機能しているということです。

ヘルマン・リダボスというオランダ改革派教会の新約学者は、新約聖書は「救済史的に」解釈されるべきだと主張しました。その背後には改革派教会が重んじてきた旧新約の歴史を貫く「契約神学」があると思われます。この世の哲学・思想の枠組みではなく、聖書から導き出された神学・教理という枠組みの中で聖書神学を行なえるというのは改革派教会の強みだと思います。しかしその一方で、教理とは「規範化される規範 (norma normata)」すなわち相対的な基準であり、聖書こそが「規範化する規範 (norma normans)」、絶対的な基準であることも忘れてはなりません。その意味で改革派教会の伝統・教理に立ちつつ、様々な方法・立場からなされる聖書研究と開かれた姿勢で対話し（時には批判し、良いものは学び取り）、聖書への理解を豊かにし、深めていくことは重要な課題だと考えます。

聖書は私たちが汲み尽くすことのできない豊かな泉のようです。そこから命の水を汲み出し続けることによって、教会そして周りの人々が潤され、生かされていく。そうして神の御国は豊かに広がっていきと信じます。そのために役立つ学びをし、少しでも貢献することができれば幸いです。

# 夏期伝道報告



3年生(別科生)

**小河 敬太**

(こがわ けいた)

西部中会 西神教会



7月は神戸長田教会での奉仕でした。児童、知的障害の方々、年配者への集会有り、地域に根付いた牧会的伝道が展開され多くの人々が入りする教会です。1階の奥の部屋には貧しいネパールの子供達に仕え貫いた画家佐野由美さんのギャラリーがあり、教会全体に慰め深い神の国の香りが漂っています。私は4回の礼拝説教と伝道の講演をさせていただきました。皆様の御言葉に耳を傾ける真剣さから長田教会の強さはここにあると感じました。

8月は北神戸キリスト伝道所での奉仕でした。

数年前から毎週水曜に神学生達と協力しテニス伝道をして下さっています。そこに集まる小学生を教会学校へ導くため夕涼み会を企画しました。皆様の協力と祈りにより多くの子供達が御言葉を聞く時が与えられました。禰津牧師夫妻の献身的で丁寧な牧会と教会学校の先生方と共に伝道に励む姿に教えられました。また、静かながらも主を喜ぶ教会の皆様から元気を頂きました。

8月最後の一週間は、沖縄までキリスト教会のカルト化による被害者の方々の支援に行きました。また、悲しい環境で育ち、寂しさから犯罪を繰り返してしまう青年と会うため毎日拘置所に通いました。主に「未熟すぎる私に神学的思考と心を込めて深い痛みを覚える魂に寄り添う力を与えて下さい」と必死に祈り続けるだけの沖縄滞在でした。夏期伝を振り返り、卒業後、具体的な宣教ビジョンを持ち、慰めの共同体形成と特に青少年伝道に力を入れて、伝道したいと心燃やされました。お祈りとお支援を心より感謝いたします。



## 夏期伝道派遣教会

小河 敬太	長田教会 / 北神戸キリスト伝道所	堂所 大嗣	那覇伝道所 / 奈良伝道所
石川 亮	仙台カナン教会 / 東仙台教会	野々山 芳和	蛸池聖書教会 (同盟教団)
金原 堅二	ワークホーム聖恵	山口 耕平	奈良伝道所 / 新潟伝道所
長谷川 はるひ	善通寺教会 / 花見川キリスト伝道所	山口 弘	名古屋教会
伊藤 築志	春日井教会 / 坂出飯山教会	光後 輝久	新潟伝道所 / 善通寺教会
柴田 朋子	坂出飯山教会 / めぐみキリスト伝道所	上田 進	西神教会
寺川 和宏	花見川キリスト伝道所 / 春日井教会	吉田 崇	吉原富士見伝道所

私は、7月・8月と仙台カナン教会と東仙台教会で夏期伝道の時を過ごしました。午前中に仙台カナン教会、午後に東仙台教会で礼拝の説教、水曜日に仙台カナン教会で祈祷会の奨励、そして、仙台教会では両月の第一主日の夕拝説教の奉仕をいたしました。

同じ日に別々の教会で違う箇所から説教を行うことは大変でした。同じ箇所からと考えたのですが、それぞれの教会に寄り添うことができる説教を準備したいと考えて、そのようにしました。その結果、1週間の大半の時間は、説教準備に費やすことになりましたが、良い学びの時となりました。自分の力の無さに落ち込むこともありましたが、しかし、神様は、そんな私を支え、励まし続けてくださいました。仙台カナン教会と東仙台教会、そして、仙台教会の方々の祈りと神様の豊かな恵みによって、夏期伝道の2ヶ月間を無事に終えることができました。

実は、仙台は、私が初めて教会に足を踏み入れた場所でした。その時、色々なことに傷つき死ぬことばかり考えていました。そんな自分が十数年後に神学生として再び仙台の地を訪れるとは思ってもみませんでした。このようになったことに神様の不思議な導きを感じました。仙台での2ヶ月間の経験を将来の働きにいかすことができるようにこれからも謙虚に研鑽と学びを続けたいと願っています。また、このような経験を与えてくださった神様に心から感謝致します。



3年生(4年生コース)

**石川 亮**

(いしかわ まこと)

東部中会 横浜教会





3年生(4年生コース)

## 金原 堅二

(きんばら けんじ)

西部中会 鈴蘭台教会

主の御名を讃美致します。私は7月8月ともに社会福祉法人「聖恵会」特にその中の「ワークホーム聖恵」に夏期伝道として遣わされました。これは、広島県竹原市にあります、障害者就労支援・生活支援を主とする福祉施設で、この中で、職員の方々の働きに加えていただきながら、御言葉を語る機会が与えられるというものでした。

通常、平日は8時半頃から15時頃まで職員の働きの中に「実習生として」加えていただきます。



作業場で利用者の方々と一緒に作業をする他、昼食の支援あるいは館内ごみ集め等を致しました。そして平日は毎朝チャペルの時間がありますが、そのチャペルのメッセージの奉仕を週に2回致しました。これは聖恵会の職員の方や利用者の方と共にささげる礼拝です。ですから普段教会に行っておられない、聖書に触れておられない方が多く集われる中で御言葉を語る、という経験が与えられました。



私にとりましてこの聖恵会で過ごす期間は「お客様」としてではなく、「共に働くひとりの人」として受け入れていただき、叱咤激励をいただく期間であったと思います。また、日曜日は広島の諸教会で説教奉仕の機会が与えられました。平和の君教会、広島教会、東広島教会、そして忠海教会。そこで関わってくださった方々、また祈りに覚えてくださった方に心からの感謝を申し上げます。これらの経験をもとに、さらに学びを丁寧に積み上げていきたいと願います。



3年生(4年生コース)

## 長谷川 はるひ

(はせがわ はるひ)

中部中会 関キリスト教会

今年は、7月は四国中会の善通寺教会、8月は東関東中会の花見川キリスト伝道所に遣わされました。どちらも無牧で、高齢の信徒の皆さんが教会を支えておられる教会でした。愛唱讃美歌にまつわる思い出は、長い信仰生活の道のり、ご高齢にもかかわらず教会の門をくぐり受洗に与った御



恵みなど、お一人お一人を神様が右の御手によって支え持ち運んでくださっているお話をお聞きすることができました。

昨年は、メモのような挨拶文を作って教会の近隣のお宅にご挨拶にあがりましたが、今回は一ヶ

月分の説教箇所を記したチラシを作成し配布しました。祈りつつ一軒一軒回りながら、地域と共に歩む教会、地域の中で働く教会を目指すにはどうしたらいいのか考えさせられました。

教会での奉仕以外にも、四国学院大学のチャペルで奨励させていただいたこと、同大学の図書館で勉強できたこと、日本基督教団の女性牧師の方々と知り合いアドバイスをいただいたこと、四国中会サマーバイブルキャンプで若い先生方と子どもたちと楽しい時を過ごしたこと、東京で行われたキリスト教性教育研究会の集まりに二年半ぶりに参加できたこと、等々、たくさんの恵みをいただきました。

90代の引退長老さんが、女性が講壇から御葉を語ることをとても喜んでくださり、「ああ、も10年は生きたいな」と言ってくださいました。様のお祈りに支えられ、これからも学びに励みいと存じます。ありがとうございました。



2年生(4年生コース)

**伊藤 築志**

(いとう つくし)

東部中会 田無教会



7月には春日井教会、8月には坂出飯山教会へとそれぞれ遣わされました。初めての夏期伝道であり、2ヶ月とは言え伝道の最前線たる教会で暮らすということに期待と恐れの入り混じった気持ちでこの夏を迎えました。

坂出飯山教会は牧師館が離れていましたが、可能な限り日中は会堂に居りました。実際に教会で生活してみると、近所の方々が普段教会をよく見ていらっしゃるということがわかります。それぞれひと月ずつでしたのであまり深い近所づきあいは築けませんでした。礼拝説教・祈祷会奨励、教会員の方々（特にご高齢者）への訪問、教会学校の催し（子どもたちを招くお楽しみ会、中会キャンプ）、欠席者への週報発送（夏期伝道着任の挨拶を添えて）などの奉仕を通して、教会はその町で生活する方々（信徒・求道者・近隣の方）と密着した場なのだとわかりました。

だが、説教準備で御言葉を噛みしめ、礼拝でそのわいを皆様と分かち合う喜びが与えられたこと感謝しています。(しかも連続して!)毎週、礼拝が日々の生活に遣わされ、また翌週の礼拝に呼びめられるというサイクルが教会に集う方々の大きな力になっているのだと感じました。私はこれから、の礼拝に仕えるという重い職務に遣わされようとしています。これから卒業までの学びと残り2回(4月)の夏期伝道の機会とを通して、神様が私をさらに成長させてくださることを期待します。



主日の説教では初めて連続講解に取り組みまし



2年生(4年生コース)

**柴田 朋子**

(しばた ともこ)

西部中会 鈴蘭台教会



7月は坂出飯山教会(香川県坂出市)、8月はめぐみキリスト伝道所(兵庫県川西市、千里山教会所属)でそれぞれ奉仕しました。主日礼拝での説教の他、日曜学校の子供のためのお話、礼拝後の学び会、祈祷会や家庭集会での奨励などが主な奉仕の内容でした。毎週説教を準備するのは初めての経験でした。何十年も信仰生活を送ってきた方々を前に、信仰の経験も、人生経験も乏しい私が何を語ればいいのか、と怖気づくこともしばしばあったのですが、その都度、語るべきは私の言葉ではなく、神様の言葉であることを思い起こしていました。説教準備の間、また礼拝で実際に説教をする間にも、聖霊が働いてくださり、語るべき言葉を与えてくださる恵みを感じていました。主日ごとに強められ、伝道者というのは何とこの幸せな仕事だろうと思いました。

プ)で奉仕しました。5年生を担当し、分級では「光の子となれ」というテーマに沿ってヨハネ福音書からお話をしましたが、子どもたちが真剣に耳を傾け、メッセージを受け止めてくれている様子を嬉しく思うと同時に、伝える責任の重さも感じました。御言葉を伝える喜びと共に、自らの足りなさを感じさせられる日々でした。御心に適う伝道者として働くことができるように、今後も学びを積み重ねていきたいと願います。

また、7月30日から8月1日まで六甲山 YMCAで行われた西部中会合同夏期学校(小学生キャン



2年生(4年生コース)

**寺川 和宏**

(てらかわ かずひろ)

西部中会 神港教会



7月は千葉の「花見川キリスト伝道所」、8月には「春日井教会」に夏期伝道に行かせて頂きました。花見川では銚子栄光教会の佐野先生と、松戸小金原教会の三川先生が会いに来て下さいました。この時、松戸小金原教会で青年会があるからと誘って下さいました。ここでは坂井先生、そ

してケン・リー先生とお会いすることが出来ました。また東関東中会の青年達とも交わりを持つことが出来ました。次に三郷教会で讃美集会をするのでドラムを叩いて欲しいと依頼があり、持田先生とお会いすることが出来ました。自分のドラムセットを使いみんなと共に讃美しました。また船橋高根

教会の夏期学校にも参加しました。また横田先生、小峯先生は忙しい中で勉強会を開いて下さり感謝しています。

春日井教会に来てからは、名古屋教会の祈祷会にも参加しました。また中部中会の青年修養会や、瑞浪伝道所、中津川教会では後藤公子先生に、そして浜松伝道所の三輪先生にご挨拶に行かせていただきました。また春日井教会の方々と讚美練習をし、小野静雄先生が作詞された「ぶどう畑」という讚美歌などを一緒に練習して信徒の皆さんと一緒に讚美することが出来ました。

今回の夏期伝道において主にある兄弟姉妹との

多くの交わりによって学び、そして多くの経験をすること出来、感謝しています。今回交わることが出来たすべての人々に神様からの祝福があるように祈りたいと思います。



2年生(4年生コース)

**堂所 大嗣**

(どうしょ だいじ)

中部中会 津島教会

私が最初に遣わされた那覇伝道所は村山雄一先生が30年以上の長きに亘って牧会してこられた教会です。一方で8月の奈良伝道所はここ数年、無牧となっている教会です。私の神学生として初めての夏期伝道は、この対照的な二つの教会でした。

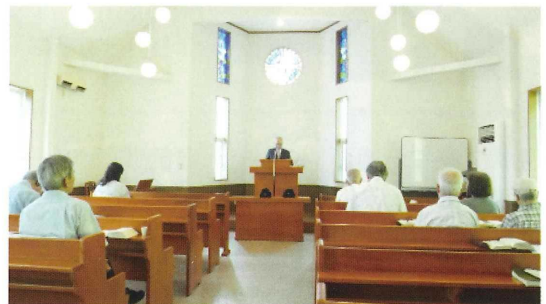


沖縄ではちょうど滞在中に参議院選挙があり、また幾つかの戦跡に足を運ぶ機会が与えられました。沖縄が今も抱える多くの痛みと、それに向き合っておられる兄弟姉妹の姿がありました。また奈良では、定住の牧師がいない中で、しかし懸命

に教会を支えようとしておられる兄弟姉妹の姿を見ました。

どちらの教会でも、それぞれが持っている痛みや課題のために、一人一人が真剣に祈りを捧げておられる姿を見ました。また未熟な神学生の説教にも関わらず、そこから神様の御声を聞き取ろうと、毎週真剣に耳を傾けてくださる兄弟姉妹の姿に、講壇に立つ責任の重さに改めて身の引き締まる思いがしました。そして、牧師の働きは決して目先の成果だけを求める短距離走のようなものではなく、捉えきれないものを一生をかけて追い求めるような働きである事を学びました。

だからこそ、神と教会に仕える働きは、大変だけれども辛い働きではないこと、神様から与えられた時間と賜物をすべて注ぐのに足る働きであることも実感する事が出来ました。その事を改めて確認できたこの2ヶ月間は、私にとって大変有意義な恵まれた時間となりました。



2年生(4年生コース)

## 野々山 芳和

(ののやま よしかず)

日本同盟基督教団  
蛍池聖書教会



主の御名を賛美いたします。2年生の野々山と申します。みなさまの祈りと様々なサポートによって神学校が支えられていることを常々実感し、感謝しております。私は日本同盟基督教団に所属する学生のため、夏期伝道には遣わされませんでした。この夏、神様から様々な恵みを頂くことができました



まずは、7/30～8/1の西部中会・合同夏季学校です。80名を超える小学生たちとともに六甲山YMCAのキャンプ場で過ごし、奉仕させてい

たきました。みんなが楽しそうにしている姿に元気をもらいました。また、奉仕教会の蛍池聖書教会では、毎年恒例のサマースクールという教会学校の特別プログラムを実施し一日楽しく過ごしました。

8月の終わりには夏期伝道中の寺川・山口弘神学生を頼りに、春日教会、名古屋教会を訪問させていただきました。礼拝出席したわけではありませんので一部の方としかお会いできませんでしたが、温かく迎えてくださり本当に感謝しております。また、その訪問では豊かな交わりの中にいる同級生の姿を見てとても嬉しく感じたことを覚えています。キリストにある交わりの中に生きる喜び、教会の姿を教えて頂きました。8月26日には昨年度卒業された三輪先生のおられる浜松伝道所へ、寺川・山口弘神学生と一緒に訪ねる機会に恵まれました。神学校で共に過ごした身近な存在であり、且つ既に現場で働いている頼もしい先輩から沢山の刺激をいただくことができ感謝でした。



2年生(4年生コース)

## 山口 耕平

(やまぐち こうへい)

西部中会 西谷伝道所



初めて奈良伝道所、そして新潟伝道所へと遣わされました。恵みに感謝しています。夏期伝道にあたり、2つのテーマを設けました。

まず一つ目は聖霊なる神の働きについての学び

を深めること。そしてもう一つが信仰の継承について考えるということでした。備えとして、私は父母が信仰へと導かれた口語訳聖書を携えて旅立ちました。スタブス先生、またモーア先生にお世話になった伊丹・西谷の群れに属する私にとって最初の派遣先が奈良であることは、まるで親戚の家にお邪魔するような心持ちでした。そのような皆さまと聖餐式にある交わりから始めさせて頂けたこと、経験豊かな教会員の皆さまに励まして頂けたことが忘れられません。

新潟では遠く坂戸から長老、執事の皆さまが可能な限りお越しになられて祈りを共にされている姿に深く感動を覚えました。また祈祷会で同盟基督



教団の方、メソジストの方、カトリックの方ともみ言葉に聞き、祈りを共にさせて頂けたのも本当に貴重な経験でした。そして坂戸教会にて携えた父母の聖書を用いてみ言葉を取り次がせていただく機会が与えられたのも感謝でした。



この夏期伝道で教会に集われるお一人おひとりの切なる祈りを伺い、特に教会から離れておられる方々への伝道の思いを新たにしました。愛をもって労苦され、希望をもって待ち望む教会の願いを神はむなしくなされない。そのことを確信し、教会に仕えさせて頂ける喜びを強くかみしめる旅でした。



2年生(4年生コース)

**山口 弘**

(やまぐち ひろむ)

西部中会 東広島伝道所

屋教会のみなさんは私を育て、変えた」。そう思います。あるご婦人が、礼拝の帰りに「私はね、み言葉が聞きたくて教会に来ているのよ。ありがとね」と声をかけてくださいました。思いもしない言葉でした。こんな私を用いてくださった神様とそのご婦人に感謝で胸が熱くなりました。

夏期伝道で気づかされたことを、この短い紙面でまとめることなど、とてもできません。それほど豊かな時間を与えてくださった神様、名古屋のみなさま、金原先生、中部のみなさま、ありがとうございました。

7、8月の2ヶ月間、名古屋教会にお世話になりました。最初、神学生が夏期伝道に来るということで、ピチピチ20代の若者をイメージしていたそうです。しかし、実際には50代のおじさんが来るとわかり微妙にがっかりしたそうです。短い期間でしたが、こんなお話を笑いながらできる関係に神様は私たちを導いてくださり、そんな、みなさんとの交わりを通して、たくさんの気づきをいただきました。



一番教えられたのは奨励でした。夏期伝道が始まったころの奨励は、いわゆる神学生の奨励であったと思います。それが7月も終わる頃から変わりはじめました。奨励準備中、みなさんの顔が浮かぶようになりました。自分が向き合っている御言葉を通して神様が示してくださっている神様の御業がA姉、B兄のどんな慰めに、励ましになるのだろう。そのことを具体的に考えるようになりました。「聴衆が説教者を育てる」と言われます。夏期伝道後半の奨励も依然反省だらけです。目に見える成果として表れていないかもしれませんが。しかし確かに、「名古



2年生(2年生コース)

## 光後 輝久

(こうご てるひさ)

西部中会 鈴蘭台教会

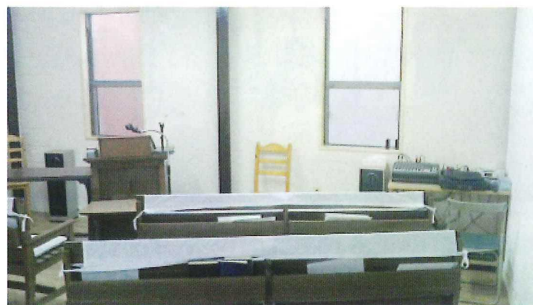


7月新潟伝道所、8月善通寺教会での夏期伝道報告をいたします。今回夏期伝道での教会生活は今までと全く違う経験をさせていただきました。一言でいえば、「教会の中から教会を見ることが出来た」という感覚を受けました。これは、大きな恵みであり、これからの信仰生活、教会生活を送るうえでの大きな財産と感謝しています。



新潟伝道所は、柏崎での家庭集会が始まりです。2009年宇都宮教会の支援を受けて新潟市内に新潟伝道所を移転。その後、坂戸教会所属伝道

所となりました。2018年末に現在地に新会堂が建設され、今年5月に献堂式が行われました。1階が会堂、2階が牧師館です。会堂建設、経済的な支援のほか、礼拝、祈祷会への出席と、坂戸教会から大きな支援をいただいています。私がいる間にも新来会者が与えられました。JR新潟駅から、1Kmと立地条件は良く、定住伝道者が与えられればと、お祈りしています。



8月から善通寺教会でした。善通寺教会は1947年に石丸幸助先生を中心として主日礼拝が始まり、翌年教会設立。その後も、松田一男先生、土井千城先生、望月明先生、石丸新先生が協力牧師、その後、39年前に加藤親平先生が着任、今年引退されました。それから無牧でしたが、千先生が8月末赴任されました。最近、韓国の若い家族の方が来会されており、その兄弟夫婦の方が8月に来会されたこともあり、これからの発展をお祈りしています。



2年生(2年生コース)

## 上田 進

(うえだ すずむ)

西部中会 西神教会

主の御名を讃美いたします。私は、出身母教会である西神教会において7～8月の2カ月にわたる夏期伝道奉仕を行いました。礼拝及び祈祷会出席者に知らない人はおらず、やりにくい面とやりやすい面の両方がありました。今年の夏は(も)と

りわけ暑く、このような猛暑!のため、ご高齢の教会員の方が多い西神教会において主日礼拝出席者が通常よりも少なかったのは事実でありましたが、この期間、これらの方々の特段大きな問題なく守られたこと、主に感謝いたします。奉仕内容は、教会学校奉仕(分級のほか、第3主日はこども説教担当)、毎水曜及び木曜の祈祷会奨励奉仕、7月及び8月の第3主日夕拝の2回の奨励、第3土曜日のこひつじ会参加、ならびに8月15日、16日の夏期学校奉仕(もっともこれは、台風のために残念ながら中止)でした。なお、神学校の寮にマイクロファイバー雑巾が「派遣教会でお使いください」というメッセージ付きで置いてありました。神戸改革派神学校は、掃除好きです。毎土曜日

に教会の講壇や椅子の艶だし及び拭き掃除を行いました。私も、「老人」に属するので、暑い中での奉仕が大変であったことは事実ですが、最後まで守られて主に感謝です。そして教会員の皆様の執り成しのお祈りを感謝いたします。少子化の中、



教会学校の先生方の熱心さを心に感じて自分が低くされました。また、神様の恵みのもと、ご高齢の方にこそ福音のもたらす命の輝きを見ることが出来ます。教会こそ、神の家庭であることを実感することができました。



特別研究生

**吉田 崇**

(よしだ たかし)

四国中会 休職教師

私は7月1ヶ月間、静岡県東部の富士市にある吉原富士見伝道所で夏期伝道の奉仕をしました。現在の富士市は人口27万ほど、浜松、静岡に次いで静岡県第三の都市となっています。(三島、沼津よりも人口が多い。) その富士市に住む信徒の家庭集会を母体に1975年に伝道所が開設されました。初代宣教教師として田村英典先生が数年勤められた後、羽野浩雪先生が現在まで30年以上にわたり勤めておられます。



私は会堂に隣接するプレハブに滞在しながら、主日礼拝の説教、日曜朝の教会学校説教、水曜祈祷会の奨励を担当しました。羽野先生が引退を控えられる中、吉原富士見伝道所がマタイによる福音書16章18節より「主の教会を建てる」を今年の教会標語としておられましたので、主日礼拝では聖書が教会についてどう語っているかをテーマに説教させていただきました。一ヶ所で継続的に奉仕するのが久々だったので不安もありましたが、羽野先生のご指導および皆様からの物心両面の支援をいただき、無事に全うすることができました。改めて御礼を申し上げます。

今後もうしばらく特別研究生として研鑽の予定ですが、吉原富士見伝道所はじめ伝道と教会形成に励む諸教会・伝道所に寄与する研究となるよう心掛けつつ、取り組んでまいりたいと思いを新たにしているところです。



## 特別公開講義



### 「病む人への魂のケア — スピリチュアルケアの 本質と実際」

講師：窪寺 俊之先生  
( 聖学院大学客員教授 )

9月17日、18日、「病む人への魂のケア—スピリチュアルケアの本質と実際」という主題で聖学院大学客員教授の窪寺俊之先生による特別公開講義が行われました。現代医療では治療技術が向上する一方、体の治療ばかりが中心となっていました。その異議申し立てとしてホスピス（緩和医療）が誕生し、心、魂も含めた全人的ケアに取り組むようになっていきます。そうした中から、人の生きる意味や死に向き合うスピリチュアルケアが登場します。ここでスピリチュアルとは、「目には見えないが人を動かし、変える力」を指します。（従って聖書の神に限定されません。）人がこのスピリチュアルと関係し希望をもって人生を過ごせるよう支援することをスピリチュアルケアは目指します。

講義1日目の段階ではこうしたスピリチュアルケアの原理的説明に対し、キリストの福音によってケアをしたいと願う神学生から違和感が示されました。それに対し窪寺先生からは、宗教的救済を提示しても現代人には入りやすい側面がある、そうした拒否反応を示す人に何もしないでよいのかという問いかけ、および窪寺先生自身はキリストによる救済にあずかってほしいとの願いを強くもっており、福音提供への前段階としてスピリチュアルケアを位置付けているとの説明がありました。

講義2日目はケアを提供する援助者に求められるところを具体的にお話いただきました。ケアを求める方との信頼関係、共感性、思いやり、信仰、相手の心、中でもその痛みや苦しみを感受できる能力が必要です。その関連で、相手の話を聞く・聴く・訊く・利く・効くことも大切です。最後にキリスト教会からスピリチュアルケアやそれに通じるもの（例：中世修道院によるホスピス）が生まれてきたこと、使徒6章より福音の宣教といのちのケアは手を携えてなされるべきものであると語られました。「魂の医者」を目指す者にとって有意義な講演をいただいたと感謝するものです。

特別研究生 吉田 崇



## 秋の信徒神学講座

### 「三位一体論の形成」

講師：坂井 純人先生

(神戸改革派神学校講師)

9月21日、28日(土)、1回目42人、2回目33人が出席し、豊かな恵みに与りました。会場を準備してくださった神港教会の皆様へ感謝を申し上げます。三位一体論の教理が、どのように形成されたのか、それはわたしたちにとってどのような意味があるのかを、神学校で教理史を教えてくださいと、坂井先生が、情熱的に語ってくださいました。その中からわたしの心に残ったことを記します。

三位一体論とは、「わたしたちの救い主とはどなたなのか?」「わたしたちが讃美し礼拝を捧げるのはどなたなのか?」という、わたしたちの具体的な信仰生活と関わりのある問題です。自分の罪を見つめるとき、イエス様によってしか救いはあり得ません。イエス様こそ救い主です。そのイエス様は神なのか? 御父と御子とは別々の存在なのか? 神は唯一ではないのか? 聖霊なる神とは人格的存在なのか? 聖霊と御父と御子との関係は? と、歴史の中で考えられてきたことが、三位一体の教理です。

御父と御子と聖霊のご存在における愛のお交わり(存在論的三位一体論)と、その神様が創造された世界に対する神様の愛のお働き(経綸論的三位一体論)について知るとき、わたしたちは神様への讃美へと導かれます。父なる神様が、御子なるイエス・キリストをわたしたちに罪のために世に送ってくださり、わたしたちはそのことを聖霊なる神様の御働きで信じることができました。イエス様の贖いによって罪赦され、御子を長子とする神の家族に加えられました。ですから、わたしたちは「天にまします我らの父よ」と、聖霊において御子を通して御父に祈ることができます。そしてまた、三位一体なる神様が、わたしたちの間にいつも居てくださるので、わたしたちはお互いを「神に愛されている大切な人」として認識し、接することができるのです。そしてこの救いに人々は招かれているのです。これらの素晴らしい恵みに感謝して、心から主の御名を讃美申し上げます。

3年生 長谷川 はるひ

## 「日本同盟基督教団の日韓宣教協力について」

講師：趙 南洙（チョウ ナムス）

川崎招待キリスト教会名誉牧師



10月28日(月)に神港教会にて第4回となる「日韓宣教研究所」セミナーが開催されました。講師は川崎招待キリスト教会名誉牧師の趙 南洙 (チョウ ナムス) 先生でした。講演題は「日本同盟基督教団の日韓宣教協力について」でした。趙先生の日本での働きを学び、これからの改革派教会にどう生かしていくかを考えるというものでした。

初めに2016年度の日本のプロテスタントの教会数、そして教会員数の推移をみてプロテスタントが日本の人口の0.47%で、カトリック、正教会を合わせても日本の人口の0.82%と1%に満たないことを語られました。ちなみにプロテスタントの比率(2013年度)として、わたしたちの改革派は日本のプロテスタント全体の中で7.2%であるということでした。続いて、教会員の礼拝出席(2014年度)は46.2%という非常に厳しい現状であることを語られました。また欧米宣教師の日本での教会形成・開拓伝道の働きも少なくなっているデータもあり、日本独自で教会形成・開拓伝道をしていかなければならない状況と

なっていることを挙げられ、日本宣教を心配されていました。

次に日本宣教の進まない理由として、高齢化・若者不足以外にも、牧師・信徒共にリーダーシップの弱さを挙げられ、これから教会の中でリーダをどう育てていくべきかを考えさせられました。また靖国問題や天皇制の問題があり、日本宣教にとっての大きな壁となっていることを語られました。この問題に対して改革派は比較的的努力していると評価されていましたが、わたしたちは更なる努力が必要であると思いました。

また、同盟基督教団では「日韓連絡委員会」があり、多くの韓国出身の教師が活躍されていることが紹介されました。また趙先生の日本で活動報告もあり、最後に更なる日韓の協力が必要であることを強調されていました。

2年生 寺川 和宏

# 関西地域諸神学校 スポーツ交流会

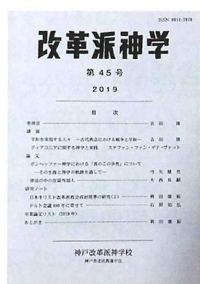
## 「神学校スポーツ交流会報告」



2019年11月11日(月)、関西にある神学校7校(生駒聖書学院、大阪聖書学院、関西聖書学院、関西聖書神学校、神戸ルーテル神学校、福音聖書神学校、および当校)の学生など総勢68名が当校に集まり、毎年恒例の「神学校スポーツ交流会」が開催されました。チャペルで開会礼拝を守り、食堂で昼食の交わりを持った後、歩いて15分の「北神戸田園スポーツ公園」の体育館に移動し、「ドッチビー(フリスビーで行うドッジボール)」で爽やかに汗

を流しました。貴重な、他派の神学生たちと交流を持つ機会でしたが、肩肘張らず、各神学校の混成チームで楽しく親交を深めることができました。多様な教派から学生が集まりましたが、同じ主に仕える者同士、互いに励まし合う機会にもなりました。この交わりが、毎年のスポーツ交流会に限らず、それぞれの将来の働きや学びにも活かされることを願います。

2年生 伊藤 築志



### 『改革派神学 第45号』(神戸改革派神学校編)

著者：吉田隆、ステファン・ファン・デアヴァット  
弓矢健児、大西良嗣、袴田康裕、石原知弘  
販売価格 1,300円

「平和を実現する人々—古代教会における戦争と平和—」、「ディアコニアに関する神学と実践」、「ボンヘッファー神学における『真のこの世性』について」、「律法の中の在留外国人」等、興味深い内容が満載です。

## 第3学期

- 1月6日(月)●一斉開講準備  
7日(火)●第3学期開講講演(講師:ステファン教授)  
10日(金)●入学願書締め切り  
2月7日(金)●全校祈祷日(講師:立石章三先生)  
18日(火)●入学試験  
28日(金)●第3学期最終講義  
3月3日(火)ー6日(金)●学期末試験  
10日(火)●第68回卒業式

## 第1学期

- 4月2日(木)●一斉開講準備  
3日(金)●第71回入学式 第1学期開講講演会(講師:石原知弘講師)  
5月9日/16日●春の信徒神学講座  
(いずれも土曜日) テーマ「ギリシア語のはじめの一步」(講師:金昭貞講師)  
21日(木)ー22日(金)●神学校リトリート(講師:持田浩次先生)  
6月5日(金)●第1学期最終講義  
9日(火)ー12日(金)●リーディング・ピリオド(含補講)  
16日(火)ー19日(金)●学期末試験  
19日(金)●夏期伝道派遣式

## 夏期

- 6月23日(火)ー7月2日(木)●ギリシア語文法集中講義(1年生)  
7月1日(水)ー8月31日(月)●夏期伝道(2~4年生)  
3日(金)ー4日(土)●第44回夏期信徒講座(講師:吉岡契典講師)  
7日(火)ー31日(金)●ギリシア語文法集中講義(1年生)  
8月11日(火)ー9月4日(金)●ヘブライ語文法集中講義(1年生)

## 第2学期

- 9月7日(月)●一斉開講準備  
8日(火)●第2学期開講講演会(講師:坂尾連太郎講師)  
10月3日/10日●秋の信徒神学講座  
(いずれも土曜日) テーマ「教会学校教師の説教講座」(講師:西部中会教育委員会)  
10月20日(火)ー22日(木)●第75回定期大会  
11月27日(金)●第23回神戸改革派・神戸ルーテル神学校合同神学シンポジウム  
27日(金)●第2学期最終講義  
12月1日(火)ー4日(金)●リーディング・ピリオド(含補講)  
8日(火)ー11日(金)●学期末試験  
11日(金)●クリスマス礼拝・祝会  
(第3学期)2021年1月4日(月)●一斉開講準備  
5日(火)●第3学期開講講演(講師:吉岡契典講師)



## 神学校の卒業式が6月から3月に変わります！

3年3ヵ月から4年制への変更に伴い、卒業式が3月に行われることになりました。今回初めての3月卒業式が、**2020年3月10日(火)**に執り行われます。どうぞお祈りに覚えてください。